

「国際土壤年」がはじまりました

研究コーディネータ 八木 一行



新しい年がはじまりました。今年、2015年は、「国際土壤年」です。

地球上の陸地のほとんどを覆う土壤は、岩石が風化して生成した無機鉱物と、生物が作り出した有機物の複合体です。そこでは土壤粒子どうしの適度な間隙を通して水と空気の交換が行われ、極めて多くの動物や微生物に活動の場を提供するとともに、植物の生育に不可欠な役割を果たしています。土壤は、これらの機能を通して、地球上の水と養分元素の循環つかさどを司っています。さらに人類にとっては、農業による食料生産を支え、その結果、文明を育むことを可能にしています。まさに、土壤は農業と生態系の基盤であり、われわれの社会と環境を支える要かなめです。

さて、食料を生産する場である土壤は、多くの場合、地表近くの有機物と養分に富む層に限られており、その厚さは、地球上の陸地全体で平均すると約18cmしかないと言われています。この肥沃な土壤が1cm蓄積されるのには、数百年以上という極めて長い年月が必要です。しかし、人類はその文明のあけぼの曙から、略奪的で破壊的な農業活動により、この貴重な土壤に大きな圧力を与え続けてきました。古代からのさまざまな文明がそうであったように、土壤の崩壊が文明の崩壊であったことを世界の歴史が教えています。そして、このことは、人口が爆発的に増える現代にも、そのまま当てはまります。現在も、世界のいたるところで、侵食、塩類化、酸性化、有害物質による汚染などによって、肥沃な土壤が、その生成速度をはるかに超えるスピードで失われています。国連食糧農業機関(FAO)は、世界の土壤の25%が「著しく劣化」しており、「劣化の程度が

中程度」だったのは44%、「改善されている」土壤は10%に過ぎなかったとする調査報告書を発表しています。

このような「土壤の危機」を背景として、2013年12月に開催された国連総

会において、2015年を国際土壤年とする決議文が採択されました。同時に、12月5日を世界土壤デーとすることも定められました。すでに、昨年(2014年)12月5日に、ニューヨークの国連本部、ローマのFAO本部、およびタイのバンコクで国際土壤年の開始式典が開催され、今後、一年間を通して、わが国を含む世界の各地で、土壤を保全するためのさまざまな取り組みが行われる予定です。

私が子供の頃、科学が切り開く夢の世紀として21世紀を待ち遠しく思ったものです。その21世紀も、早いもので、すでに15回目のお正月を迎えました。確かに、科学技術により便利な暮らしは手に入るようになりました。しかし、人類の行く末を考えると、地球全体の食料と環境に関する問題はますます深刻になるばかりです。そして、今世紀を通して人類が解決しなければならない、この2つの大きな問題の根底には、ともに土壤の危機があります。願わくは、100年後の我々の子孫が肯定的に評価できるような2015年の取り組みができればと思います。

